

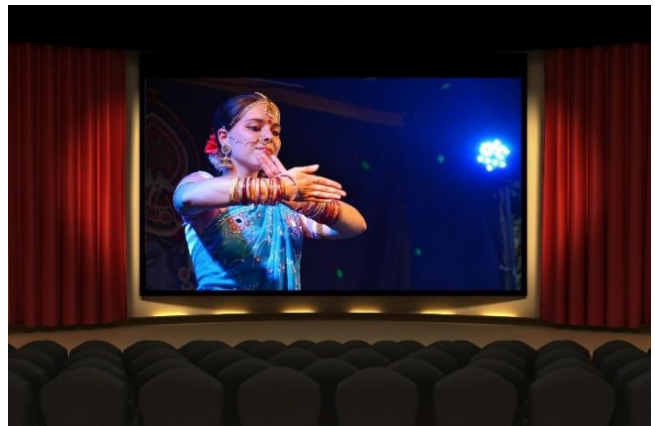
世界有数の映画大国インド
あなどるなかれ！インド映画で心も経済も豊潤に！

メイド・イン・インド ～常識破りの映画スケールで、世界にインドの魅力を発信～

▶ インド映画はもはや必需品セクター

映画といえば、米国のハリウッドと思うかもしれませんが、実はインドは年間1,600本以上の映画を製作する映画大国です。2021年は、1,818本の映画が製作（正確には、当局から認証）されました。日本では、「ムトゥ踊るマハラジャ（1995年公開）」が有名です。本映画公開後には、インドへの日本人観光客の増加や、インド料理への関心の高まりなど、様々な影響を与えました。2022年は「RRR」が公開され、話題となっています。

インド映画といえば、コメディあり、アクションあり、感動あり、ミュージカルありと様々な要素が盛り込まれています。なお、よくインド映画は「ボリウッド」と連想しがちですが、必ずしもそうではありません。ボリウッドは、ムンバイのインド映画産業全般につけられた俗称で、ムンバイの旧称（ボンベイ）の「ボ」と「米ハリウッド」の造語です。米映画のすべてがハリウッド映画ではないように、インドでは他にも「コリウッド」、「マリウッド」、「トリウッド」などがあります。インド国内には8,700カ所以上の映画館があり、全ての州および連邦直轄地域に点在しています。そのため、映画はインド国民にとって、必要不可欠な娯楽インフラの1つとなっています。



年間映画製作本数上位国の状況

1	インド	1,986本
2	中国	874本
3	米国	660本
4	日本	594本
5	英国	285本

※上記は2017年、インドは2016年

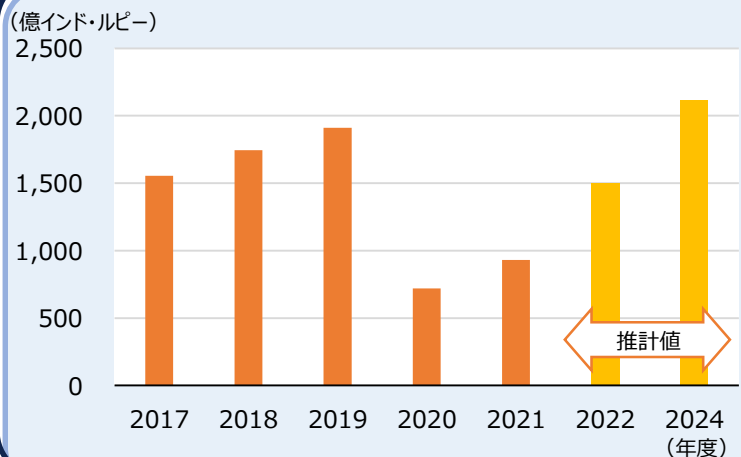
▶ インドにおけるシュワちゃん*的な存在も

*アーノルド・シュワルツェネッガー、元米カリフォルニア州知事

入館料は高額なもの（約4,000円）もありますが、少額（約130円）でも見ることができ、大衆娯楽として映画は大きな地位を占めています。しかしながら、映画産業における100万人以上におよぶ雇用や、映画スターによる政界進出など、社会に対して大きな影響があるため、娯楽という域を超えた産業と言っても過言ではありません。

政治面・経済面において世界的に影響が大きくなるインド。映画産業における世界への影響についても今後の動向がとても楽しみな国となっています。

インド映画の市場規模の推移





ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会